平成21年7月31日

各　　位

会 社 名　　共同ピーアール株式会社
代表者名　　代表取締役社長　大橋　榮
（ＪＡＳＤＡＱ・コード番号：２４３６）
問合せ先
役職・氏名　管理局長　福嶋　慶久
電話　　０３－３５７１－５１７２

平成21年12月期第２四半期累計期間及び通期（連結･個別）業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績の動向等を踏まえ、平成21年３月10日付当社「平成21年12月期（連結・個別）業績予想の修正に関するお知らせ」にて発表いたしました平成21年12月期第２四半期累計期間（平成21年１月１日～平成21年６月30日）の連結及び個別の業績予想を修正いたします。また、これに伴いまして、平成21年12月期通期（平成21年１月１日～平成21年12月31日）の業績予想についても下記の通り修正いたします。

記

１．平成21年12月期　連結業績予想数値の修正

【第２四半期累計期間（平成21年１月１日～平成21年６月30日）】　（単位：百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益
前回発表予想（A）	2,452	△　8	△　9	△　19
今回修正予想（B）	2,145	△　135	△　134	△　142
増減額（B－A）	△　307	△　127	△　125	△　123
増減率（%）	△ 12.5	－	－	－
（ご参考） 前期（平成20年12月期中間期）実績	2,355	2	1	△　22

【通期（平成21年１月１日～平成21年12月31日）】　（単位：百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回発表予想（A）	5,000	84	81	32
今回修正予想（B）	4,639	△　90	△　90	△　106
増減額（B－A）	△　361	△　174	△　172	△　138
増減率（%）	△　7.2	－	－	－
（ご参考） 前期（平成20年12月期通期）実績	4,845	△　34	△　40	△　112

２．平成 21 年 12 月期　個別業績予想数値の修正

【第２四半期累計期間（平成 21 年１月１日～平成 21 年６月 30 日）】　（単位：百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益
前回発表予想（Ａ）	2,252	1	2	△　3
今回修正予想（Ｂ）	1,978	△　94	△　93	△　104
増減額（Ｂ－Ａ）	△　273	△　96	△　95	△　100
増減率（％）	△ 12.1	－	－	－
（ご参考） 前期（平成 20 年 12 月期中間期）実績	2,204	23	22	△　88

【通期（平成 21 年１月１日～平成 21 年 12 月 31 日）】　（単位：百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回発表予想（Ａ）	4,548	69	69	25
今回修正予想（Ｂ）	4,039	△　92	△　90	△　99
増減額（Ｂ－Ａ）	△　508	△　161	△　160	△　125
増減率（％）	△ 11.1	－	－	－
（ご参考） 前期（平成 20 年 12 月期通期）実績	4,517	17	15	△177

３．修正の理由

【平成 21 年 12 月期第２四半期累計期間について】

平成 21 年 12 月期第２四半期累計期間の連結売上高につきましては、2,452 百万円を予定しておりましたが､307 百万円未達の 2,145 百万円となる見込みであります｡国内外の景気が減速する中、ＰＲ業界におきましても例外ではなく、多くのクライアントにおいて経費削減の一環として広報予算の削減が見受けられるなど、厳しい状況にありました。このような状況下、リテイナーによる売上高が 1,219 百万円（当初計画に比し 149 百万円の未達）、オプショナル＆スポットによる売上高が 729 百万円（当初計画に比し 192 百万円の未達）、ペイドパブリシティによる売上高が 196 百万円（当初計画に比し 34 百万円の増加）と当初計画に対し未達となりました。この主な理由としましては、国内においては、景気の影響等から残念ながら取引中止となったクライアントが見られたこと、１社あたりの平均単価が、広報予算削減等の影響から下落したことが挙げられます。また、海外においては、中華人民共和国の上海市、北京市及び韓国のソウル市にて子会社が営業を行なっており、懸案課題である赤字体質からの脱却に向け努めてまいりましたが、昨年から引続く世界経済の後退の中、当社の主なクライアントである中国に進出している日本企業の業績の悪化等からＰＲ案件の開発が思うように進みませんでした。韓国においては、設立後間も無いこともあり、韓国国内での当社の活動がまだまだ認知されておらず、新規顧客の開拓に努めている最中であります。

連結営業損益につきましては、40 万円の貸倒引当金繰入額を計上することから、８百万円の損失を予定しておりましたが、それを上回る 135 百万円の損失となる見込みであります。これは当第２四半期累計期間において、固定費の削減に努めてまいりましたが、それ以上に売上高の減少の影響

が利益を大きく押し下げたこと、そして連結子会社である共同拓信公関顧問（上海）有限公司及び韓国共同ＰＲの業績が計画通りに伸展せず、営業利益でそれぞれ 14 百万円、29 百万円の損失を計上したことが、連結営業利益を押し下げた最大の要因であります。

連結経常損益につきましては、９百万円の損失を予定しておりましたが、上記の理由により 134 百万円の損失となる見込みであります。

連結四半期純損益につきましては、上記の理由に加え、持分変動利益による特別利益３百万円、固定資産除却損による特別損失９百万円により 142 百万円の損失となる見込みであります。

個別業績予想の修正につきましては、連結と同様の理由により、売上高につきましては 273 百万円未達の 1,978 百万円、営業損益につきましては 94 百万円の損失、そして経常損益につきましては 93 百万円の損失となる見込みであります。また、四半期純損益につきましては、104 百万円の損失となる見込みであります。

なお、中間配当につきましては、当初の予定通り１株当たり 15 円を予定しております。

【平成 21 年 12 月期通期について】

景気後退状況下、クライアントの業務発注が慎重になってきたことから既存のクライアントからのＰＲ業務受注額の減少、新規クライアント案件の獲得停滞、並びに今回の第２四半期累計期間の業績予想の結果を踏まえ、当初発表した業績予想の達成は困難と判断し、通期業績予想を修正するものであります。具体的には、上期の業績を鑑み下期予想を見直した結果、通期における連結売上高については個別及び共同拓信公関顧問（上海）有限公司で各 508 百万円、10 百万円等の下方修正により平成 21 年３月 10 日に発表した業績予想から 361 百万円下方に修正いたします。

また、連結売上高の通期計画見直しに伴い、連結営業損益は 174 百万円下方修正し 90 百万円の損失、連結経常損益は 172 百万円下方修正し 90 百万円の損失、連結当期純損益は 138 百万円下方修正し 106 百万円の損失といたします。

個別業績予想の修正につきましても、連結と同様の理由により、売上高は 508 百万円下方修正し 4,039 百万円、営業損益は 161 百万円下方修正し 92 百万円の損失、経常損益は 160 百万円下方修正し 90 百万円の損失、当期純損益は 125 百万円下方修正し 99 百万円の損失といたします。

以上

■　見通しに関する注意事項
業績予想につきましては、当社が現時点で合理的であると判断する一定の条件に基づき作成しており、実際の業績は予想と大幅に異なる場合があります。